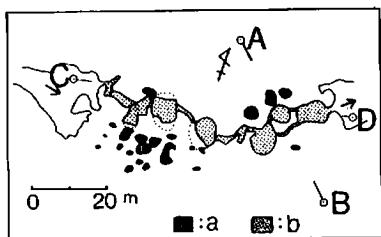


八釜の甌穴群形成に関する実験的研究

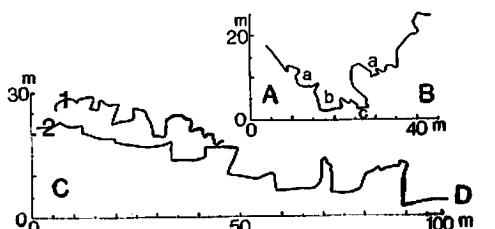
小玉芳敬(自然学類)
池田宏(地球科学系)

愛媛県にある特別天然記念物・八釜の甌穴群はチャートの河床に生じた大小30余りのポット・ホールからなる。これらのポット・ホールを高位にあって孤立した小型のもの(孤立型)と、深い溝でつながる大型のもの(連結型)に分類した(第1図、第2図)。そして、それらの形成過程を模型実験で調べた。

実験は、模型の縮尺を原型の200分の1とし、幅10cm長さ5mの水路によく攪はんしたシルト質粘土を8cmの厚さに平滑に敷きつめ、勾配を現地の平均河床勾配に等しく5.7分の1とした。そして、現地で毎年数回起ころる洪水に相当する一定流

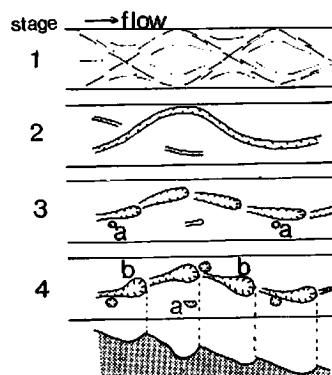


第1図 八釜の甌穴群
a:孤立型ポット・ホール、b:連結型ポット・ホールとそれらを結ぶ深い溝



第2図 八釜の甌穴群の縦横断形
A-B: 横断形、1:孤立型、b:連結型、c:連結型の溝
C-D: 河床縦断形、1:孤立型に沿う、2:連結型に沿う、平均河床勾配1/5.7
(資料:四国電力株式会社実測図による)

量の水を砂と共に流し2つのタイプのポット・ホールの形成過程を観察・測定した(第3図、第4図)。



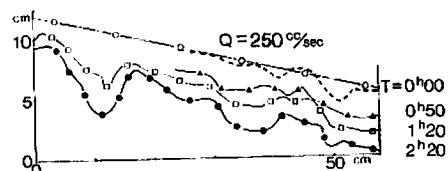
第3図 水路におけるポット・ホールの発達過程模式図(平面図)

stage 1: 水流は、河床全面を斜め衝撃波を発生しながら流れる

stage 2: 彫刻刃(丸刃)で削った様な1筋の溝(Inner Channel)が発達し、流砂は次第に溝に集中する

stage 3: Inner Channelの河床縦断形が、階段状になる。流れは、Chutes and poolsをなす。Inner Channel脇の高位に渦流による小さなポット・ホール(a)が形成される。孤立型に酷似

stage 4: poolでの深掘れが進行して、連結型に酷似したポット・ホール(b)が形成される。流れはInner Channelに集中する(第4図)



第4図 水路における連結型ポット・ホールの発達過程(縦断形)

T: 通水時間、破線は、T=00h50'の水面形